

(別紙様式3)

令和7年 3月 31日

事業完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 茨城県つくば市天王台一丁目1番1
管理機関名 国立大学法人筑波大学
代表者名 学長 永田 恭介

(公印省略)

令和6年度WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業に係る事業完了報告書を、下記により提出します。

記

- 事業の実施期間
令和6年 4月 1日（契約締結日）～ 令和7年 3月 31日
- 事業拠点校名 （幹事管理機関のため該当無し）
- 構想名 （幹事管理機関のため該当無し）
- 構想の概要 （幹事管理機関のため該当無し）
- 教育課程の特例の活用の有無 （幹事管理機関のため該当無し）
- 管理機関の取組・支援実績 （幹事管理機関のため該当無し）
- 研究開発の実績
(1) 実施日程

業務項目	実施期間（令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(1) 本事業全体の情報共有及び成果普及のための研究協議会・フォーラム等の取組を主催・実施計画（文部科学省と共催）	連絡協議会開催準備		連絡協議会開催（6月28日）	連絡協議会の総括と全国高校生フォーラム開催に向けた準備			全国高校生フォーラム開催に向けた準備		全国高校生フォーラム開催（12月15日）	全国高校生フォーラムの総括		
(2) 各拠点校等に共通する課題やニーズの把握及び解決方法の提案・実施計画（文部科学省と協働）	連絡協議会に向けた各校からのニーズの集約と情報提供準備		連絡協議会における各校からのニーズの集約と情報提供		全国高校生フォーラムに向けた各校からのニーズの集約と情報提供				全国高校生フォーラムの成果と提起された課題の集約	全国高校生フォーラムで提起された課題の集約及び課題解決方法の共有と提案		

(3) 本事業全体の成果等について、WEB サイト等による公表（外国語を含む）計画（文部科学省と協働）	WWL 専用WEB サイト等での普及	連絡協議会開催に向けての情報発信	連絡協議会の報告と情報発信 全国高校生フォーラム開催に向けての情報発信	全国高校生フォーラム開催の情報発信	全国高校生フォーラムの報告と情報発信
			WEB サイトでの WWL コンソーシアム構築支援事業の情報発信		
(4) 文部科学省が設置する WWL コンソーシアム構築支援事業地域 AL 拠点機関との間における実施経過報告や連携等を通じた本事業の円滑な実施（文部科学省と協働）	WWL コンソーシアム構築支援事業地域 AL 拠点機関との連携による連絡協議会の円滑な実施準備	WWL コンソーシアム構築支援事業地域 AL 拠点機関との連携した連絡協議会開催	WWL コンソーシアム構築支援事業地域 AL 拠点機関との間における連絡協議会実施経過報告及び全国高校生フォーラムの円滑な実施準備	WWL コンソーシアム構築支援事業地域 AL 拠点機関との連携した全国高校生フォーラム開催	WWL コンソーシアム構築支援事業地域 AL 拠点機関との間における全国高校生フォーラム実施経過報告及び地域 AL 拠点機関等含めた事業全体に関する集約・報告等

(2) 実績の説明

<WWL コンソーシアム構築支援事業 連絡協議会開催>

6月28日（金）、筑波大学東京キャンパス文京校舎において「令和6年度WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業およびスーパーグローバルハイスクール（SGH）ネットワーク連絡協議会」を対面形式で開催し、WWL カリキュラム開発拠点校等 29 機関、SGH ネットワーク参加校 45 校などから、約 100 名が参加した。

午前の部は、幹事管理機関を代表して呑海沙織筑波大学副学長・附属学校教育局教育長による開会挨拶、田中義恭文部科学省初等中等教育局参事官（高等学校担当）による文部科学省挨拶から始まり、その後 WWL 取組発表を行った。地域 AL ネットワークである大阪教育大学、WWL 令和5年度指定校である福島県ふたば未来学園中学校・高等学校、および山梨県甲府第一高等学校から発表があり、先進的な取組みや生徒の活躍の報告に対して、活発に質問や意見が寄せられた。また、これらの取組みに対して、久野弘幸企画評価会議委員からコメントがあった。

午後の部は、5～6 名ずつに分かれたグループ別協議を、前半・後半でメンバーを入れ替えて 50 分×2 回行った。テーマとして、①グローバル人材育成の強化について、②高度な学びを提供するための取組みについて、③開発したカリキュラムの展開・活用・発信における取組・課題について、のうちいずれかを取り上げた。どのグループも非常に活発な意見交換がなされ、互いの事例や課題を共有し議論を深めた。

その後、会場を移した全体発表で、各グループにおける協議内容が共有され、発表内容に対する佐藤真久企画評価会議委員からコメントがあった。

最後に、萱島信子企画評価会議座長から挨拶があり、日本の未来を作っていく世代の新たな学びを発展させていくとともに、探究の喜び・発見・力を伸ばしていくため関係者とともに努力していきたいという、全国の参加者に対する激励の言葉が述べられ、すべてのプログラムが終了した。

<WWL コンソーシアム構築支援事業 全国高校生フォーラム開催>

12月15日（日）、国立オリンピック記念青少年総合センターにて「2024 年度全国高校生フォーラム」を対面形式で開催し、WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業およびスーパーグローバルハイスクール（SGH）ネットワークに参加する国内外の 109 校（WWL54 校、SGH ネットワーク 55 校／ポスター掲示による参加 6 校を含む）の生徒および関係者約 450 名が参加した。

（当日のプログラム）

開会式 10:00～10:10

ポスターセッション予選・生徒交流会（ディスカッション）前半* 10:25～11:30

ポスターセッション予選・生徒交流会（ディスカッション）後半* 11:45～12:50
（昼食休憩）

ポスターセッション決選 14:10～15:00

広報コーナー 15:15～15:30

表彰式・閉会式 15:30～16:00

*昼食前のポスターセッションと生徒交流会（ディスカッション）は、参加校を2グループに分け、前半・後半でグループを入れ替えて行った。

フォーラム全体の進行は、前年度文部科学大臣賞を受賞した岡山県立岡山城東高等学校の生徒2名が総合司会として担当し、開会式では、幹事管理機関を代表して吞海沙織筑波大学副学長・附属学校教育局教育長による挨拶の後、全体説明等を行った。

ポスターセッションでは、日頃取り組んでいるグローバルな社会課題の研究内容や解決にむけた提言等に関するプレゼンテーションを英語で行った。予選の各グループから7校が選出され、決選として午後に審査委員および参加生徒全員の前で改めて発表を行った。

生徒交流会（ディスカッション）では、20名程度のグループをつくり、アドバイザーの筑波大学教員、アシスタントの筑波大学の学生から助言を受けながら、「Well-being」をテーマに種々のグローバルな社会課題を取り上げ、解決に向け高校生にできることは何か等、英語によるディスカッションを行った。

広報コーナーでは、生徒交流会（ディスカッション）でアドバイザーを務めた大庭良介筑波大学教授がJV-Campus事業のPRを行った。

表彰式・閉会式では、優秀なポスター発表を行った学校に贈られる各賞(文部科学大臣賞、審査委員長賞)および新設された奨励賞の受賞校の発表が行われた。企画評価会議の萱島信子座長より講評があり、総評として金城泰邦文部科学大臣政務官より挨拶があった。

萱島氏、金城氏からは、本フォーラムが、国内外の多数の高校生が一同に会し、日頃の成果を発表し、語り合い、学び合う貴重な機会となったことへの喜びが述べられ、参加者が将来、社会課題解決に積極的に関わることでできるグローバルリーダーとして活躍することへの期待が伝えられ、すべてのプログラムが終了した。

授賞校一覧

■文部科学大臣賞（1校）

名古屋大学教育学部附属中・高等学校

ポスタータイトル：婚姻増加＝出生率増加ではない!?日仏比較から見る育児とキャリアの課題

■審査委員長賞（1校）

立命館宇治中学校・高等学校

ポスタータイトル：ラオス教育問題に直接アプローチ！～学生支援団体「Laonin」について～

■奨励賞（5校） ※グループ順

福井県立高志高等学校

ポスタータイトル：食品ロス削減および外国人住民の防災啓発のための地域に即した災害備蓄食品の活用

東京学芸大学附属国際中等教育学校

ポスタータイトル：物語の内的真実に気付くことのできる読書の方法とは

神戸市立葺合高等学校

ポスタータイトル：三田市役所における外国人居住者に対する言語支援

星城高等学校

ポスタータイトル：豊明すごろく～笑顔あふれる交流～

岡山県立岡山城東高等学校

ポスタータイトル：授業に集中できる環境づくり

8 目標の進捗状況、成果、評価

WWL コンソーシアム構築支援事業連絡協議会および WWL コンソーシアム構築支援事業全国高校生フォーラムは、昨年度に引き続き対面で開催することができた。昨年度は、4年ぶりの対面開催であり、対面開催の経験を持つ職員も少なく、文部科学省との調整も含め準備段階での検討事項が多くあったが、今年度はその経験や参加者によるアンケート結果を生かし、大きなトラブルもなく無事に開催することができた。

参加者の感想も、連絡協議会では、対面でのグループ別協議等において各校の実践についての情報交換が十分できたことに対する先生方の評価が高かった。また、全国高校生フォーラムにおいても、各校の英語によるポスター発表と質疑応答や生徒交流会でのグループディスカッションについて、多くの刺激を受けるとともに達成感があった、多様な社会的課題に取り組む同年代がいることがわかり励みになった、この経験を今後の研究に生かしたい、など高い評価を参加生徒や先生方からいただくことができた。

これらの成果により WWL 幹事管理機関として6年目の取組みは、コロナ禍を経て、対面での活発な交流の場を復活させたことにより、イノベーティブなグローバル人材を育成するという WWL 事業の推進に大きく貢献するものであったといえる。

9 次年度以降の課題及び改善点

- ・全国高校生フォーラムのポスターセッションについて、参加者アンケートでは全体として高い評価を得た。昨年度の参加者アンケートを踏まえて採用した予選・決選方式は、昨年度の課題だった審査の公平性を担保する役割を果たすとともに、優秀校の発表を全体で視聴できる点が評価された。一方、予選の発表時間や質疑応答の時間が短かったことや、今後の発表の改善のために観点別のスコアを知りたい、などについての要望があった。また、開催日程については、遠方からの参加の場合、休日の宿泊費が高騰していることから、平日の開催を望む声もあった。

- ・全国高校生フォーラムの生徒交流会（ディスカッション）についても、参加者アンケートで高い評価を得た。一方、テーマの発表の時期を早めてほしい、今年度は時間を短縮したこともあり会場全体でのディスカッションの時間を十分確保してほしい、などの要望があった。また、昨年度に引き続き、英語でのディスカッションを実施する必然性を見直し、理由付けする必要があるという指摘があった。今後は、海外からの参加校を増やすなどの改善を図り、参加者のモチベーションの維持に努める必要性を感じた。

- ・来年度、本学は幹事管理機関を辞退することとなったが、参加者アンケートにおいても連絡協議会、全国高校生フォーラムの継続を期待する声は多い。

【担当者】

担当課	東京キャンパス事務部企画推進課	T E L	03-3942-6432
氏 名	大坪 仁美	F A X	03-3942-6911
職 名	主任	E-mail	kikaku-kokusai@un.tsukuba.ac.jp